



国・重要無形民俗文化財

魚津の夕テモン行事 うおづ ぎょうじ

魚津市諏訪町（魚津たてもん保存会）

県・有形民俗文化財 昭和47年10月5日指定

たてもん うおづ

魚津市諏訪町（諏訪神社氏子総代）

毎年8月第一金・土曜日の両晩に、漁夫の宮である諏訪神社の祭礼において「たてもん祭り」が勇壮・華麗に行われる。かつては同月17、18日に行われていたが、サンマ船の出漁時期と重なる等の理由で繰り上げて実施するようになった。

「たてもん」は、豊漁と航海安全を祈願して贄（にえ 供え物）を神前に奉納することからきたといわれ、そり形の台（2.6m×2.2m）の中央に心棒（高さ約15m）を立て、約80～90個の提灯（ちようちん）を帆の形に飾り付けたもので、80人ほどの人々によって威勢よく曳き廻される。

たてもん祭りの形式が現在のように固定されたのは江戸時代の半ば頃で、9基の「たてもん」があったといわれているが、現在残っているのは7基で、各町内ごとに管理、保存がなされている。

昭和47年に「たてもん」が県の有形民俗文化財に指定され、さらに平成9年に「魚津の夕テモン行事」として祭り自体が国の重要無形民俗文化財に指定された。